

雪洞

糸魚川勤労者山岳会

会長 青木 満 磨
TEL 025-552-9901



(2108)No.58 発行 2019年9月27日

山行記

★山域・山名=北ア・前穂高岳 3090m、奥穂高岳 3190m

★山行日=2019年9月14-16日(土-月)

★天 候=14.15日/快晴、16日/曇り時々晴れ

★山行者=大瀬亮、渡辺久(報告)、他1名

【9月14日】(上高地バスターミナル~明神橋~岳沢小屋)

▼バスターミナル8時出発。明神分岐まで涸沢組(内山、渡辺悦)に同行。ここで涸沢組と別れ、明神橋から梓川右岸に渡り、清流のイワナを眺めながら自然探勝路を経由して岳沢小屋に向かう。

▼水の流れていない花崗岩礫の白く長大な岳

沢を左手に、西穂独標、西穂、間ノ岳と続く連峰を仰ぎながら歩きやすい登山道を気持ちよく進み、風過ぎ小屋に到着した。

▼上天気と景観の素晴らしさについてビールを飲み過ぎてしまった。この山行のための4日間の禁酒は何だったのか。

【9月15日】(岳沢小屋~紀美子平~前穂高岳~奥穂高岳~穂高岳山荘)

▼小屋を5時50分出発。重太郎新道を歩き始めて40分。12mの鉄バシゴにたじろぐが、登ってみればさほどではない。その後もクサリ、梯子がいくつもあるような急峻な登りが続いたが、怖さは感じなかった。

▼「カモシカの立場」という妙な命名の休憩ポイントや岳沢パノラマあたりからは左前方の間ノ岳、天狗ノ頭などがぐんぐん迫ってきて高度を稼いでいる実感がわく。とがった小岩峰を梯子で下り、クサリのついたスラブを通過し、急な岩をよじ登ったところで目の前に紀美子平が開けた。9時。

▼小休憩後ザックを置き、勾配のある渋滞気味の岩場を前穂高岳に向かう。予想以上に厳しい登りだったが、人でにぎわう山頂は大パノラマで、富士山と槍ヶ岳以外は名前もわからなかったものの素晴らしい眺めを満喫した。紀美子平に下り昼食、休憩。

▼いよいよ吊尾根だ。気を引き締めて奥穂高岳に向かう。吊尾根上部を途中から見上げ、あんなところを歩くのかと気持ちが萎えたが、行ってみれば緊張しつつもそれなりに登れたのでほっとした。ガイドブックにあった核心部はどこなのか、恐る恐る進んだがよくわからぬまま通過した。というより私にとっては全部が核心部であったのだ。

▼人で混み合う奥穂高岳の山頂は霧が去来しジャングルも全貌を見せなかったが3190mに立っているという充実感でいっぱいだ。名残惜しいが緩やかな下りを穂高岳山荘に向かう。下り勾配が増し、山荘が見え始めると大渋滞になった。数歩歩き5、10分の停滞の繰り返し。山荘に着いたのは15時20分だった。

▼山荘は受付に20分もかかるほどの混みよう。テラスでビールをあおりながらふかふかの雲海を眺めているとやがてブロッケン現象が現

れた。夕食後就寝。

【9月16日】(穂高岳山荘～ザイテングラート～涸沢ヒュッテ～上高地バスターミナル)

▼昨夜は布団1枚に2人。暑さも加わりほとんど眠れなかったので、ゆっくり準備し朝食後7時20分出発。ザイテングラートを下りきったところで平野ガイドに声をかけられびっく

り。涸沢ヒュッテに9時到着、涸沢組(女性二人)に合流した。

▼以降の記録については涸沢組(女性二人)に委ねる。上高地バスターミナル16時着。

『落石のことなど・・・』

▼重太郎新道を登り始めて30分くらいしたとき、先行の同行者より「ラク❗」の警告に、見上げればダケカンバを飛び越えて30cm大の石が降ってきたのが見えたが、なすすべもなく右足ふくらはぎに直撃を受けた。幸い、当たり方と当たり所が良かったのかかすり傷もなかった。今回の山行は私にとっては長く険しい道の

りだったが、覚悟して慎重にゆっくり歩いたこと、この落石の教訓として自他による落石には細心の注意を払うようにしたこと、信頼する仲間と一緒にいたことが故障なく楽しく山行できた理由であると思う。手袋には穴が空いたが、惜しくない。

【報告 by 渡辺久、写真 by 大瀬】



上左 前穂高岳山頂にて 左奥に槍ヶ岳も見えている
上右 重太郎新道から奥穂高岳、ジャンダルムを見る
下左 前穂高岳山頂から槍が多方面の絶景
下右 穂高岳山荘でのブロックン現象 ラッキー❗

